

A.I.

物語

August - September 2025

こんな本
読んでみて

No.114

エー・アイ【AI】(artificial intelligence) 人工知能。

じんこう・ちのう【人工知能】推論・判断などの知的な機能を備えたコンピューター・システム。(中略) 知識を蓄積する知識ベース部、集めた知識から結論をひきだす推論部が不可欠である。知識ベースを自動的に構築したり誤った知識を訂正したりする学習機能を持つものもある。AI 『広辞苑 第七版』より

A I と 物語



『東京都同情塔』

著者／九段理江
出版社／新潮社
出版年／2024年
請求記号／913.6||Ku 16

新たに建設されることになった刑務所「シンパシータワートーキョー」をめぐる物語。主人公と文章構築AI「AI-built」の対話シーンも登場します。本書の一部分に、実際の生成AIを使用した文章が使われていることでも注目を集めました。第170回芥川賞受賞作。

目 次

AIと物語	1
MIETAN 本つなぎ 第15回	6
Book design の世界 vol.44	10
ちょこちょこ日記 #54	12



AI と 物語



『クララとお日さま』

著 者／カズオ・イシグロ

訳 者／土屋政雄

出版社／早川書房

出版年／2021年

請求記号／933||I 73

AF(人口親友)ロボットのクララと病弱な少女・ジョジーは、ロボット売り場で出会い、ジョジーの家庭と一緒に暮らすことになります。クララとジョジーの友情を描いた感動作です。



『マルチナ、永遠のAI。』

著 者／大村あつし

出版社／ダイヤモンド社

出版年／2018年

請求記号／913.6||O 64

「AIと仮想通貨時代をどう生きるか」をテーマにした本作は、主人公の正真とAI、幼なじみとの三角関係をめぐるエンターテインメント小説です。わかりやすくAIや仮想通貨について学べる一冊となっています。

A I と 物語



『走馬灯のセトリは考えておいて』

著 者／柴田勝家
出版社／早川書房
出版年／2022年
請求記号／913.6||Sh 18

信仰をテーマにした6作品を収めた短編集です。表題作『走馬灯のセトリは考えておいて』は、人が死後に自らの分身「ライフキャスト」を残せるようになった未来を舞台に、バーチャルアイドル・黄昏キエラのラストライブの舞台裏を描く作品です。

『本心』

著 者／平野啓一郎
出版社／文藝春秋
出版年／2021年
請求記号／913.6||H 66

「母を作ってほしいんです」朔也は急逝した最愛の母の本心を探るため、母のVF(ヴァーチャル・フィギュア)作成を依頼します。VFの母との対話から明らかになる真実とは…。2040年代の日本を舞台にした長編小説。2024年公開の映画化作品原作。



—今日はよろしくお願ひします。まずは、いちさんのおすすめの本を教えてください。

いちさん 僕が好きなのは『ラブカは静かに弓を持つ』(安壇美緒著／集英社／2022年)です。僕は音楽が好きで、法律を学んでいるので法律にも興味があるんですが、この小説は、実際にあった裁判を基にして作られたんです。主人公は、音楽の著作権を管理する団体に所属しています。音楽教室で練習に使用する楽曲の使用料を取るという規程に対する訴訟が起こり、音楽教室で著作権が及ぶ楽曲を演奏している証拠を掴むために、主人公がスパイとして音楽教室へ入って音楽を学びます。その中で、裏切っている罪悪感や仕事だからやらなきゃいけないっていう葛藤があって、あとは、音楽をやるのが純粋に楽しくて今後も音楽を続けていきたいけど、スパイであることがバレてしまったらそこに通い続けることもできなくなってしまう、そういう感情の変化が丁寧に書かれているので、そこがすごく面白いです。

—この本はどんな風に出会いましたか？

いちさん この本はたくさんの賞を取ってるんですよ。2023年本屋大賞では第2位でした。本屋大賞のノミネートで知って、自分で買って読みました。元々、魚や水族館が好きなので、タイトルのラブカっていう魚の名前だけ見て、気になって手に取ってみました。



—ラブカは魚の名前なんですね。ラブカが物語にどう関わってくるんでしょうか？

いちさん それを言ってしまうとネタバレになってしまふので言えないんです。

—そうなんですね。それも楽しみにしながら読んでもらいたいですね。続いて、やまさんのおすすめ本のご紹介をお願いします。

やまさん 『また、同じ夢を見ていた』(住野よる著／双葉社／2018年)です。

—この本のどんなところが好きですか？

やまさん 伏線が張られていて、後半に一気にひっくりかえっていくみたいな感じの本なんです。中学生の頃、読書感想文を書く時にこの本を選びました。この本がきっかけで本にはまったかなと思います。伏線回収のすごさにこの本で取りつかれて、同じ系統の本を探すようになりました。

—好きな登場人物はいますか？

やまさん 南さんかな。主人公と3人の大人がメインで出てきて、その大人のうちの1人です。これも説明するとちょっとネタバレになってしまふ...。主人公はちょっとひねくれた感じの小学生で、国語の授業で出された「幸せとは何か？」という問い合わせを探したくて、その3人の大人がそれぞれ主人公に教えを説いていく感じです。

—読む本をいつもどうやって選びますか？

やまさん YouTubeで「ほんタメ」っていう本を紹介しているチャンネルがあったり、インターネット上で好きなものを共有する掲示板があって、そこで聞くといい感じのネタバレなしで教えてくれることが多いです。そういう風に探します。あとは、タイトルだけ見て買うこともあります。



いちさん 本屋大賞で選んだり、あと、好きな作家さんの本は出たら買います。なので家には、同じ作家さんの本が並んでいます。好きな作家は河野裕さんです。河野さんはボードゲーム作家なので、物語の中で戦略性が出てくる時に、俯瞰視点で進んでくるとボードゲームみたいで、不思議な感じで面白いです。

一本を読む時は、どこでどんな感じで読みますか？

いちさん 読み始めたら一気に読んじゃうので、お風呂にも入って、もうあと寝るだけみたいな感じにして、ガーって読んで、余韻に浸りながら寝るっていう風に読みます。



やまさん 高校生の頃は、1時間ぐらい図書室に残って途中まで読んで帰るみたいのをしてたんですけど。最近は、電子書籍で、電車や空き時間にスマホでバーって見てます。電子書籍だと音声読み上げ機能があるので、所要時間とかも計算しやすいし、字だけで読むとちょっと途中でぱーっとしちゃったりするので、読み上げてもらしながら字と一緒に見て、無理やり進めてもらう感じです。本文の中に辞書データも読み込まれていて、難しい言葉が出てきた時に長押ししたら意味が出てくるので手間が省けます。

－お二人それぞれの本の楽しみ方をお話いただきありがとうございます。



本つなぎ 3つの質問

－3つの質問のコーナーです。①今、はまっているものを教えてください。



いちさん 僕は今、将棋にはまっています。小学3年生の頃からずっと続けてはいたんですけど、受験とかも終わって最近ちょっとまた始めたっていう感じです。

－将棋を始めたきっかけは何ですか？

いちさん お父さんが、コマの動かし方が全部書いてあるスタート用の将棋盤を買ってきてくれて、それで一緒にやったのがきっかけで、そこからずっと続けています。今は基本的にはスマホでしています。あとは、将棋の「大盤解説会」っていうプロの人人がタイトル戦をリアルタイムで解説してくれるイベントがあって、去年は2回行きました。今年も小牧であるので行きます。

－やまさんの今、はまっているものは何ですか？

やまさん 音楽鑑賞にはまっています。最近は、好きなアーティストの「水槽」が、ライブに出る時にDJをすることが多いので、DJみたいな分野にはまっています。



－②100万円あったら何に使いますか？ 前回登場ののんさんからの質問です。

いちさん 全国のいろんなところの水族館を巡ってみたいですね。モンガラカワハギという魚を名古屋港水族館で見て好きになったんですが、今はもう名古屋港水族館にいなくて見れなくなっちゃったので、いろんなところへ行った時に見たいなと思います。

やまさん 100万円あったら自分の部屋に重課金します。模様替えです。でかいスピーカーや、パソコン周りのモニターを買ったりしたいです。あと、大学から軽音部に入って、そこで音楽を始めたので、ギターも買いたいです。

－③好きなお菓子は何ですか？ こまめさんからの質問です。

いちさん 好きなお菓子はチョコレートです。毎年バレンタインの時期には、チョコのイベントへ買いに行きます。神戸のお店・Nakamura Chocolateのチョコがめちゃくちゃ美味しいくて、一個一個すごくかわいいのでおすすめです。

やまさん グミが好きです。最近は、ペタグーグミが好きです。コンビニのバイトをしていた、ペタグーグミのソーダ味をお店にある分だけ一気に買っていくお客様がいて気になって、それではまりました。

－今日は楽しいお話をありがとうございました。

今回の 本つなぎ

● いちさん ●
『ラブカは静かに弓を持つ』
安壇美緒著／集英社／2022年／913.6||A 16

● やまさん ●
『また、同じ夢を見ていた』
住野よる著／双葉社／2018年(文庫)
(2016年(単行本)／913.6||Su 63)
どちらの小説も図書館にあります。ぜひ読んでみてください。

15



Book design の世界 vol.44

水戸部 功さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第44回目は、水戸部功さんです。

今回ご紹介する装丁家の水戸部功さんは、大学在学中から装丁の仕事を始め、2011年には第42回講談社出版文化賞ブックデザイン賞を受賞されました。著書に『現代日本のブックデザイン史1996-2020』(長田年伸、川名潤、水戸部功ほか編／誠文堂新光社／2021年)、『装幀百花 菊地信義のデザイン』(菊地信義著／水戸部功編／講談社／2022年)があります。



最初にご紹介する『息吹』(テッド・チャン著／大森望訳／早川書房／2019年／933.7||C 41)は、育成型AIを描く「ソフトウェア・オブジェクトのライフサイクル」ほか、全9篇のSF作品集です。白地に黒の文字を切り貼りしたようなデザインは、強いインパクトがあります。「無菌や透明感、ヒューマニズム」⁽¹⁾をイメージした装丁です。



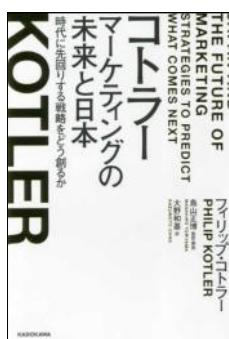
『アナロジア AIの次に来るもの』(ジョージ・ダイソン著／橋本大也訳／早川書房／2023年／007.04||D 99)は、デジタル技術の進化の歴史と今後を予見する一冊です。フォントの異なる「ANALOGIA」の文字が並び、印刷のかすれや銀色の箔押しが施されたスタイリッシュなデザインとなっています。アナログとデジタルの移り変わりを感じさせるような装丁です。



『これから「正義」の話をしよう いまを生き延びるためにの哲学』(マイケル・サンデル著／鬼澤忍訳／早川書房／2010年／311.1||Sa 62)は、ハーバード大学の人気哲学講義を書籍化したベストセラーです。「表情や情緒をすべて排除してみたらどうか」⁽²⁾という水戸部さんの試みが形になった装丁です。表紙全体に文字が配置されていて、シンプルですが文字のバランスが絶妙で目を引くデザインとなっています。

『侵略日記』(アンドレイ・クルコフ著／福間恵訳／

ホーム社／2023年／989.46||Ku 69)は、2022年2月に始まったロシアとウクライナの戦争についてキーウ在住の作家が記した半年間の日記をまとめた一冊です。表紙は、青地に英語のタイトルと著者名が模様のように繰り返し書かれています。白い四角で文字が隠されていることによって緊迫した空気を感じさせます。



最後にご紹介する『コトラー マーケティングの未来と日本』(フィリップ・コトラー著／大野和基訳／KADOKAWA／2017年／675||Ko 93)は、「近代マーケティングの父」と称されるコトラーが、日本に向けて記した一冊です。文字が表紙の端ギリギリの場所に配置されており、英字部分には金色の箔押しが施されています。文字のレイアウトが美しく品格のある装丁です。

水戸部功さんの装丁は、白地に黒文字だけを用いたシンプルで洗練されたデザインが多く見られます。オーソドックスな文字を大胆に配置することで、一冊一冊が個性的で印象に残る、魅力的な装丁作品となっています。

Book design の世界 次回もお楽しみに！

参考・引用：(1)産経ニュース 2020/2/22 「装丁入魂 装丁家・水戸部功さん「無菌」「透明感」イメージ」
<https://www.sankei.com/article/20200222-VO4AHUORBBJDNA87TQRR7FJ06A/> (2025/7/25参照)
(2)竹尾Webサイト 2020/3/16 「紙について話そう。菊地信義・水戸部功」
<https://www.takeo.co.jp/reading/dialogue/30.html> (2025/7/25参照)

ちょこちょこ日記 #54 「AIの本」

今号のテーマは「AIと物語」でした。こちらのコーナーでは、AIの基本から未来まで学ぶことができるAIの本をご紹介します。ぜひ読んでみてください。

●『文系のためのめっちゃやさしい人工知能』



松原仁監修／ニュートンプレス／2022年／007.13||Ma 73

先生と生徒の対話形式で書かれているので、AI技術の基本や歴史、活用方法について楽しみながら幅広く学ぶことができます。

●『温かいテクノロジー』



林要著／ライツ社／2023年／548.3||H 48

家族型ロボット「LOVOT(らぼっと)」の開発者が語る、温かさと革新性を両立させたテクノロジーの実現方法。開発の過程から未来予測まで記した一冊です。

●『10年後のハローワーク』



川村秀憲著／アスコム／2024年／366||Ka 95

現在ある多くの仕事がAIに置き換わると言われています。本書は、AI研究者がこれから進展するAI化社会や働き方について、わかりやすく解説した一冊です。

次号No.115は、2025年10月発行予定です。

こんな本読んでみて No.114

2025年8月1日 発行

編集・発行 津市立三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www2.library.tsu-cc.ac.jp/>